



平成30年4月24日

京都経済情勢報告

1. 総論

【総括判断】「京都府内の経済情勢は、緩やかに拡大しつつある」

項目	前回（30年1月判断）	今回（30年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復している	緩やかに拡大しつつある	↗

（注）30年4月判断は、前回1月判断以降、4月に入ってからからの足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は緩やかに回復しているほか、生産活動は緩やかに拡大しつつあり、雇用情勢は一層の改善が進んでいるなど、全体としては緩やかに拡大しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（30年1月判断）	今回（30年4月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→
生産活動	回復している	緩やかに拡大しつつある	↗
雇用情勢	着実に改善している	一層の改善が進んでいる	↗
設備投資	29年度は前年度を上回る計画となっている	29年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	29年度は増益見込みとなっている	29年度は増益見込みとなっている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策効果などを背景に、緩やかに拡大していくことが期待される。ただし、為替変動の影響や海外情勢の動向などに留意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ **個人消費** 「緩やかに回復している」

百貨店・スーパー販売額は、スーパーでは、青果など飲食料品が復調傾向となっているものの、衣料品が低調となっていることから前年を下回っている。また、百貨店では、化粧品が訪日外国人客を中心に引き続き好調であるほか、時計や宝飾品などの高額品が好調を維持していることから前年を上回っており、全体では概ね横ばいとなっている。

コンビニエンスストア販売額は、競合により客数が振るわなかったものの、店内調理品等のカウンター商材が引き続き好調となっているなど、客単価が堅調に推移しており全体では前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通車が前年を上回っているものの、新型車効果の一巡などにより小型車が前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。

家電販売額は、エアコンや空気清浄機などが高機能品を中心に好調となっているほか、ゲーム関連機器が引き続き好調となっていることから、全体では前年を上回っている。

ドラッグストア販売額は、新規出店効果に加え、訪日外国人客を中心に化粧品などが引き続き好調となっているほか、飲食料品などの取扱商品の拡充などから全体では前年を上回っている。

ホームセンター販売額は、ペット用品が堅調であったものの、主力の日常用品が横ばいで推移したことから、全体では概ね横ばいとなっている。

■ **観光動向** 「好調に推移している」

観光動向は、ホテル稼働率は高水準で推移しているほか、ホテル新設などの設備投資も活発であるなど、引き続き好調に推移している。

- 3月に入り気温が一転して上昇したことから春物衣料が一気に動き出し、足下では衣料品の売上が好調。また、時計や宝飾品などの高額品や化粧品が好調となっているほか、インバウンド消費も好調を維持している。(百貨店・大企業)
- 雪の影響により来店客数が減少したものの、青果が高値安定で推移したことなどから客単価は上昇している。また、新規出店効果や販促強化により前年を上回る売上となっており、先行きについても明るい。(スーパー・中小企業)
- 天候の影響に加え、ドラッグストアなどとの競合により来店客が減少したが、店内調理品等のカウンター商材や惣菜が引き続き好調であり、客単価は堅調に推移している。(コンビニエンスストア・大企業)
- このところ前年並みで推移しているが、低価格や低燃費にこだわるのではなく、自動ブレーキ機能など安全性能を充実させたグレードが売れている。(自動車販売・中小企業)
- エアコンが好調を維持している。また、空気清浄機が好調となっており、高機能モデルへの買換えのほか、追加購入も増えてきている。ゲーム機関連も全般的に好調となっている。(家電量販店・大企業)
- インバウンドについては、特定のメーカーの化粧品が在庫がなくなるほどよく売れており、免税件数、売上高は引き続き好調に推移している。そのほか、花粉症対策グッズが好調。(ドラッグストア・中小企業)
- 新規ホテルの開業が相次ぎ、競合が激しくなった影響で平均客室単価は横ばいであるものの、ホテルの稼働率は好調を維持している。今後も京都市内で積極的な事業展開を考えている。(不動産・大企業)

■ **生産活動** 「緩やかに拡大しつつある」

鉱工業生産指数は、全国及び近畿を上回る高い水準で推移しているなか、はん用・生産用・業務用機械などが低下しているものの、電子部品・デバイス、輸送機械が上昇している。生産増強などに向けた更なる設備投資の動きも大企業を中心にみられるなど、企業の生産活動は緩やかに拡大しつつある。

- 車載用やスマホの高機能化に伴う搭載点数の増加により、電子部品需要は旺盛。また、半導体関連の部品は供給が追いついておらず、生産能力増強のため新工場建設を予定している。(情報通信機械・大企業)
- 自動車関連、産業機器向け電子部品は高水準の生産が続いている。今後もこの状況を維持する見込み。(情報通信機械・大企業)
- 足下では主力部門においてフル生産が続いており、納品までに時間がかかっている。(輸送機械・大企業)
- 海外メーカーの設備投資意欲が旺盛なことから、半導体関連の装置は非常に好調。また、人手不足を背景に、取引先は自動化への設備投資を積極的に行っており、受注は好調。(生産用機械・中堅企業)
- 会員企業からは、「受注の増加に対応しきれない」との声が多く聞かれている。特に半導体関連については、今後はIoTやAI関連の需要も拡大すると予想されるため、この状況は当分続くともみている。(業界団体)

■ 雇用情勢 「一層の改善が進んでいる」

有効求人倍率は48か月連続で1倍を超え、引き続き高水準で推移しているなど、雇用情勢は一層の改善が進んでいる。

- 製造・加工業務の作業員を募集しても集まらない状況が続いている。(業務用機械・大企業)
- テナントで販売員の人手不足が深刻となっている。人員に余裕がないため、急な欠勤等への対応が難しい。(小売・中小企業)
- 会員企業では、女性の活用や定年退職者の再雇用を行っている。製造業において熟練した技術を持った人材は貴重であり、定年後に再雇用され、後進の指導にあたっている事例もある。(業界団体)
- 現場に従事する社員をつなぎとめるため、賃金面の待遇を手厚くした。(建設・中堅企業)
- 求人に対する応募者を増やすために時給の底上げを行っている。(小売・中堅企業)

■ 設備投資 「29年度は前年度を上回る見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」30年1-3月期

製造業では、その他製造業などが前年度を下回っているものの、情報通信機械、電気機械などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

非製造業では、学術研究・専門・技術サービスなどが前年度を下回っているものの、運輸・郵便、不動産などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「29年度は増益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」30年1-3月期

製造業では、情報通信機械などが減益見込みとなっているものの、業務用機械、その他製造業などが増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

非製造業では、学術研究・専門・技術サービスなどが減益見込みとなっているものの、運輸・郵便、医療・教育などが増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 **新設住宅着工戸数**を後方3か月平均で見ると、前年を上回っている。

■ 公共事業 **前払金保証請負金額累計**で見ると、前年を下回っている。

■ 金融 **法人企業景気予測調査(平成30年1-3月期調査)**で見ると、資金繰り判断BSIは全産業で「悪化」超となっている。金融機関の融資態度判断BSIは全産業で「緩やか」超となっている。

■ 企業倒産 件数を3か月平均で見ると、前年を上回っているものの、低水準で推移している。

■ 企業の景況感 **法人企業景気予測調査(平成30年1-3月期調査)**の景況判断BSIで見ると、現状判断は全産業で「下降」超となっており、規模別では、大企業は「上昇」超、中堅企業、中小企業は「下降」超となっている。先行きについては、全産業で「上昇」超に転じる見通しとなっている。

連絡・問合せ先 京都財務事務所財務課 Tel.075-752-1418